

保育料の値下げは可能なのか?

松本議員 11月12、14日にかけて市内9カ所で議会報告会を開催し、人口減少をテーマに懇談をしたところ、多くの意見が出た。七尾市は子育て支援が充実しているが、若者の定住に繋がっていない。現在、同時期保育料で第1子は全額負担、第2子は半額負担、第3子以降は全額無料となっているが、現在はどれだけの対象者で予算額になっているのか。また、第2子以降を無料とした場合には、併せて保育料を全額無料にした場合についても同様に伺う。

北谷健康福祉部長 現在、第1子は1、405名、半額の保育料となる第2子は430名で7、000万円、全額無料の第3子以上は47名で1、500万円となり、合計8、500万円となる。もし第2子を無料とした場合、7、000万円の財政負担が増え、他の子育て支援を廃止または大幅な縮小をしなければならぬ。また、全額無料にした場合は、一般財源から約5億1、100万円の予算が必要となる。つまり、七尾市の財政運営に甚大な影響を与えることになる。

- 市有地利用について
- 地方交付税・合併特例分について



市内の保育園

数多くの碑を使った活用策を講ぜよ!

荒川議員 貴重な観光資源ともいえる碑について、旧3町にある碑の調査をどのように取り組むのか。また、以前「七尾歌碑・句碑めぐり」といったものや七尾国際石彫シンポジウムにおいて市内各所に設置した石碑など、これらを活用した取り組みを図ってはどうか。併せて、それら碑の管理体制を明確にしておく必要があると思うが、その管理をしっかりと行うためには要綱が必要だと思いが見解を伺う。

近江教育長 旧3町の調査と旧七尾市の追加調査は、文化財保護審議委員会などに依頼して、改定版「七尾の碑」を発行する予定。また、現在設置されている顕彰碑や歌碑や句碑などは、それぞれ表現する趣旨に若干違いがあるため、その趣旨に応じた活用策を検討し、まちなかの活性化や周遊観光のツールとして活用する予定。管理方法については、各碑の所有者が管理している状況であり、今後調査を進めてまとめていく予定。また、管理上で問題が出てくるようであれば、設置要綱などを作っていく必要があると考えている。

- 七尾市におけるアベノミクス効果と七尾版総合戦略策定について
- 七尾ふるさと大使の充実について
- 七尾城について



市内にある石碑

広範囲で自主防災組織の活動費補助を!

山崎議員 公民館単位の自主防災組織で、防災訓練の活動費として10万円を限度に補助され、町会単位では5万円となる。では、小学校校区の範囲で公民館単位と町会単位の自主防災組織が合同で訓練をした場合はどうなるのか。自主防災組織等育成事業補助金交付要綱では、交付対象が公民館単位や町会単位等になっている。より現実的で柔軟にするためにも、公民館と近隣の町会単位の自主防災組織が連絡協議会のような組織を設置し、自主防災組織としてみなして活動費を補助できるようにしてほしいが見解を伺う。

登美市民生活部長 自主防災組織同士の合同訓練または連携に関する活動助成の制度はないが、校区単位での訓練は現実的。今後、校区単位の自主防災組織にも助成制度が活用できるように要綱の改正も含めて検討していく。

その他の質問項目

- ものづくり支援について
- 大胆な企業誘致について
- 市民の購買力強化について
- 公用車による交通事故多発について
- 地域医療連携・地域の病院診療所を守る施策について
- 夢を持つ将来展望について



自主防災組織の防災訓練

相撲どころ七尾を積極的にPRせよ!

中西議員 戦後の石川県で大相撲の幕内力士七尾市出身者は元前頭2枚目の時葉山、元横綱の輪島、元関脇の外田山、元関脇の栃乃洋がいる。現在は、11月場所に十両で準優勝という立派な成績を残した輝関も誕生した。地元石崎町では、保育園や小学校で垂れ幕を作ったり、地域でのほり旗を上げたりと、大変な盛り上がりを見せている。新幹線や能越道など、多くの人が全国から訪れると予想されるなか、和倉温泉駅が改修されるということで展示コーナーを作ることができないのか伺う。また、能登食祭市場や七尾駅でも出来ないのか伺う。

小川産業部長 展示コーナーの設置については、市民の方や電車でお越しの観光客などに七尾市が相撲どころであるとお知らせするには大変有効なものだと考えているが、現在は具体的な計画はない。しかしながら、民間で動きがあるというふう聞いていますので、今後の地域の盛り上がりに向けていきたい。

その他の質問項目

- 七尾市内のスポーツイベントの日程告知方法について



和倉温泉駅

女性が活躍できる場の拡大を!

伊藤議員 七尾市において政策決定に女性の視点を反映してほしく、2020年までに指導的地位に占める女性の割合を30%にし、女性の活躍を促すための検討委員会を設置してどうか。また、来年度七尾市男女共同参画推進プランの3次プランの策定の年となるが、さまざまな業種の女性管理職の意見をこれまで以上に取り入れて、しっかりととしたプラン作成をしていただきたいが、どのような予定なのか伺う。

不嶋市長 七尾市では、女性の力を発揮するための組織体制や人事配置をしっかりとっている。現在の女性管理職の登用率は31%に達しているため、今のところ検討委員会を設置するつもりはないが、今後も能力のある女性職員を積極的に登用していく。また、キャリアアップのための研修もしっかりと準備していきたい。

- 国際交流の取り組みについて
- 学校教育のがん予防教育について
- 市民ボランティアセンターについて
- 建設予定の博物館について



市内で活躍する女性団体

資源を生かした企業連携体の構築を!

西川議員 地域経済の競争力強化のためには、農林水産業の6次産業化を推進し、ブランドを確立する必要がある。以前、中小企業診断協会の調査で生産数量の拡大、生産品目の拡大、営業販路の拡大の3点の大きな課題が分かった。現在の七尾市6次産業化体制の計画および取り組みについて、どのようになっているのか、また、その取り組みの成果についても伺う。

小川産業部長 行政では現在、里山里海振興課の5名体制で対応し、民間体制では、今年7月に農協や漁協、商工会議所、地元金融機関などで「のと七尾6次産業化支援機構」を設立し、相談窓口の設置や人材育成の支援、事業計画の策定、補助金申請や商品開発の支援、販路開拓のための支援など、相談から販路開拓まで連続した支援を行っている。主な成果としては、農業分野ではスギヨファームが出荷施設などの施設整備などを進め30名の雇用を、水産分野では鹿渡島定置が神経絞めの付加価値販売などで18名の雇用を確保している。今後は、1次、2次、3次を巻き込んだ連携企業体を構築していきたい。

その他の質問項目

- 中小学校の土曜日の使い方について
- 消滅可能性自治体として今後の対応策について



1次産業となる漁業